

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成30年10月25日(2018.10.25)

【公開番号】特開2017-118385(P2017-118385A)

【公開日】平成29年6月29日(2017.6.29)

【年通号数】公開・登録公報2017-024

【出願番号】特願2015-253253(P2015-253253)

【国際特許分類】

H 04 R 1/06 (2006.01)

【F I】

H 04 R 1/06 320

【手続補正書】

【提出日】平成30年9月10日(2018.9.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

金属メッシュM50は、マイクロホンユニットM20と、マイクロホンユニットM20と接続したマイクロホンコードM40の前端側の一部と、共にマイクロホンケースM10に収納される。金属メッシュM50は、マイクロホンMの内周面に取り付けられ、マイクロホンケースM10の内側から後部音孔M12hを覆う。コードブッシュM30は、マイクロホンケースM10の開口に嵌合されて、マイクロホンケースM10の開口を後方から塞ぐ。マイクロホンケースM10は、コードブッシュM30と、ねじで締結される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

固定部材60は、音響透過部材50をマイクロホンケース10の内部に固定して、マイクロホンケース10の開口の一部を覆う。固定部材60は、マイクロホンケース10に収納されたコード接続部材40や音響透過部材50などが、マイクロホンケース10の外部に抜け出るのを防ぐ。固定部材60は、音響透過部材50の後方側に配置される。固定部材60は、板状であり、リング部61と当接部62とを備える。固定部材60は、例えば、C R形止め輪である。リング部61は、中央に挿通孔61hを有するリング状である。当接部62は、リング状の周縁から斜め後方に向けて放射状に延出する。リング部61は、当接部62と一緒に形成される。当接部62は、マイクロホンユニット20の内周面に当接する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

連通路73hは、空間Sとマイクロホンケース10の外部とを連通させる。つまり、マイクロホンケース10の外部は、連通路73hと固定部材60の当接部62間の空間と音

響透過部材 5 0 と貫通孔 4 3 hとを介して、空間 S と連通する。